

ない夫れ故に直ちに疲れて溺死する様になる此方法は尤も優秀なるもので直ちに鼠族の害を免るゝ事が出来るといふて居るが如何なる捕鼠器にても之を連続的に使用する事を避けて其危険物なるを忘るゝ迄禁止する事食物を時に變換する事等は極めて必要である此等の器械とても必ず其成功を期する事は出来ない凡て此等の場合に於ては能く此動物の習性を會得し充分の注意を拂ふといふ事が緊要である尙鼠の外に白色クマ鼠及小形の *M. musculus* 等も人家に居るが殊に東京に於ては白色クマチヅミが多數であるけれ共褐色クマ鼠の習性を知つて捕鼠奨勵を行はゞ他の鼠の事を論せずとも多少の功果あるべしと信じて記述したのである終に臨み波江氏の懇切なる御注意を深く謝す。

(赤松)

●日光山麓西北方面に於ける夏期の

鳥界視察 (第二)

小川 三紀

八月の鳥界(湯本)

上旬(毎日の觀察)

Erythraeus alahige

一日曇 A. 8. 19. 湯本の峰に十數回高き調子にて鳴く。

二日晴 A. 9. P. 7. 湯本の峰に十數回聞ゆ。

三日曇 P. 3. do.

九日晴 P. 4. 湯湖の畔山林中に遠く數回聞ゆ。

Milvus aler melanotis

二日雨 P. 3. 湯本の峰にて樹上に高く鳴く。

三日曇 P. 3. 前日の如し。

五日曇 P. 2. 湯湖の上天空低く鳴き廻る。

六日曇 A. 7. 湯本の峰に一羽を見る。

九日晴 P. 4. 湯湖の上天空に二羽飛び廻る。

Corvus macrorhynchos?

二日雨 P. 3. 湯本の峰に鳴く。

三日曇 P. 3. 湯本の原にて「ツガ」の枯木の上

に唯一羽を見る。

Oechia cantans

(289)

三日曇 A. 7. 湯本の峰に法華經を多く聞く。

六日曇 A. 7. 同前

Cuculus poliocephalus.

一日より六日まで一度も聞かず。

七日 P. 7. (八月に入りて始めて) 一回鳴聲を聞く。

八日より十日まで一度も聞かず。

Parus aiceps minor.

二日曇 A. 8. 湯本の山林に来る。

三日晴 A. 7. 時々高音張を聞く、東京に於けるより早く續け鳴く。

五日曇 P. 2. 湯湖の瀧附近に二羽を見る。

六日曇 A. 7. 湯本の峰にて昌に高音張す。

Anthus maculatus

三日曇 P. 3. 湯本に近く、湯湖に面せる原の中

にて「ツガ」の枯木に二羽棲る。

Garrulus japonicus.

三日曇 A. 9. 湯本の峰に來りて數回鳴く。

P. 3. 白根嶺にて「ツガ」の樹上に一羽を見た
り。

Picus major.

三日曇 P. 3. 湯本の湖に面せる原の中にて「ツガ」の枯木に棲り啄木しつゝまぢのぼる雄鳥一羽を見る。

Motacilla boarula melanope.

三日曇 A. 8. 湯本の家根にて鳴く。

P. 3. 附近の原にて「ツガ」の枯木の上に見る。
六日曇 A. 7. 例の如く諸所に見る。

九日晴 P. 2. 湯湖の畔の生じたる砂地の上
に二羽を見る。

Merula chrycolaus.

三日曇 P. 3. 湯本の湖に面する原の中にて「ツガ」の枯木の頂に二羽棲る。

九日晴 P. 4. 湯湖に突出せる兎島にて鳴く。

Jynhula grisei ventris rosacea.

三日曇 P. 3. 湯本の湖に面する原の中にて低

Merula chrysolaus.

十一日晴 A. 11.5 湯本の峰にて「ツガ」の上に一羽。

十九日晴 P. 5. 湯本の山麓にて唯一羽を見る。

Emberiza ciopsis.

十一日晴 P. 2.5 湯湖の瀧附近にて高音張す。

Parus atriceps minor.

十四日晴 P. 5.5 湯本の峰にて昌に高音を張る。

十六日晴 A. 湯湖畔の林中に鳴く。

Pericrocotus cinereus.

十四日 P. 5.5 湯本の峰に來りて彼の奇聲にて續け鳴く。

Garrulus japonicus.

十五日微雨 A. 11.5 湯本の峰に來りて鳴く。

Cuculus poliocephalus.

(中旬に入りては一度も聞きたることなし)。

Phylloscopus Xanthodryas.

十八日 A. 10. 湯本の峰に來りて昌に高音を張

る此鳥の鳴聲は甚奇にして聲圖にて之を現はし

難し、華嚴及湯本にて此鳥を「ゼニドリ」と云ふ蓋

其鳴聲に因るものならん、強て此を聲圖(但し聲

の綴は余未之を記す能はず)に現はさんとせば

… … …とすよりは寧ろ

~~~~~とする方可なり。

此の如きものを數回づゝ續け鳴くなり。

*Lanius bucephalus.*

十八日雨 P. 4. 湯本の峰に一羽來りて鳴く中

旬にも矢張少なし。

*Motacilla boarula melanope.*

普通なり然し生殖時期の鳴聲は最早聞くを得

ず。

*Cettia cantans.*

十六日晴 A. 8. 湯湖畔の山林中に多し。

*Pyrrhula griseiventris rosacea.*

十六日晴 A. 8. 湯湖畔の山林中に鳴く。

*Merula cardis*

(中旬に入りて一度も聞かず)

八月十六日湯元より金盛峠を経て群馬縣上野國利根郡片品村  
大字東小川字清水の菅沼に遊ぶ此間觀察したる鳥類。

### 通路

湯元—白根磧—御用か平ら—金盛峠(峠の頂上は即上下

兩州の國界なり)—笈沼

### 白根磧

*Garrulus japonicus.*

一羽「ツガ」の林中に鳴く。

### 御用か平ら

*Erethacus akabige.*

山間の谷林中深く雄の聲を聞く。

*Cettia cantans.*

法華經を多く聞く。

*Lynggipicus kizuki seebolmi.*

「ツガ」の林中に鳴く。

### 金盛峠(下野の部)

*Parus varius*

少からず「ツガ」の林中に鳴く。

*Parus atriceps minor.*

「ツガ」の林中に聞ゆれど少なし

……と十數回高音を張る(此

の聲の綴は先年詳記せり)。

*Pyrrhula griseiventris rosacea.*

「ツガ」の林中に數回聞く。

*Parus ater.*

「ツガ」の林中に多し。

*Anthus maculatus.*

峠へ登る途中にて横に倒れたる「ツガ」の大幹の

下にて地上に一羽を見る。

*Cettia cantans.*

チャタノチャタ……………度々聞く。

*Garrulus japonicus.*

一羽「ツガ」の樹上に鳴く。

*Phylloscopus xanthodryas.*

「ツガ」の樹上に高く栖りて高音を張る。

*Tarsiger cyanurus.*

〇を一羽見る。

金盛峠(上野の部)

*Phylloscopus xanthodryas*

高音張を到る所に聞く。

*Parus atriceps minor.*

少からず。

菅沼附近

*Motacilla boarula melanope.*

湯湖の畔水際の砂地に唯一羽を見る。

*Parus atriceps minor.*

少からず、「ツガ」及「リウセン」の樹上に鳴く。

*Tarsiger cyanurus.*

〇一羽「シラカバ」の樹上に見る。

*Phylloscopus xanthodryas.*

「リウセン」の樹上に高く栖りて高音張を爲す。

と十數回。

*Muscicapa sibirica.*

「ツガ」の樹上に多く見る。

*Cettia cantans.*

法華經を時々聞く。

*Parus ater.*

少からず。當時尙生殖時期にして「ツガ」「リウセン」「シラカバ」等の樹梢に棲り頭上の羽毛を少しく逆立つ。

Thzié, thzié, thzié, thzié, thzié,

~~~~~

Tsu tsu tsu tsu tsu tsu

余は彼が度々昆蟲を啄みつゝ來りて棲り鳴く所の「ツガ」及「リウセン」の下に静止すること約二十分漸くにして構巢あるを推考せり。

巢は「シラカバ」の大幹の瘤の内にありて地上巢までの高さ約一丈。

茲に於て余は之を田子勝彌君に報ず氏は直に例の「ツガ」によちのぼりて(靜に巢中を探りたるに幼鳥の聲かすかに聞たる山)次に余も亦此を

窺ふに巢は甚深くして余の中指にて此に達する能はざりき。

八月十九日湯本より「金田のどや」を経て西澤の金山に遊ぶ。途に觀察せる鳥類。

通路

湯元―たて山―たてが湖―大野原―きりごめ湖―どや

の山―金田のどや

―金澤―湯澤―ぼ

うひ澤―西澤の金

山。

湯 元

Merula chrysalus.

山腹の樹上に唯

一羽を見る。

たて山及たてが湖畔

Phylloscopus xanthothryas.

高音張昌にあちこちに聞ゆ。

Cettia cantans.

法華經及茶々を聞く。

Parus atriceps minor.

少からず。

Parus ater.

少からず。

Parus varius.

少からず。

Tarsiger cyanurus.

♂♀を「ツガ」の樹上に見る。

大野原

Cinclus pallasi.

溪流に一羽水面凡そ一二尺の所を一直線に飛び

行く、時に午後三時。

こやの山

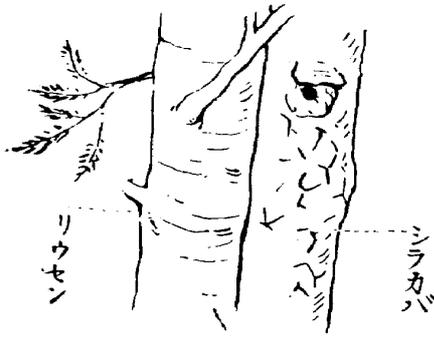
Troglodytes fumigatus.

一羽茶々……と鳴きつゝ甍の下より出で、熊笹

の内に入る。

Merula chrysolans.

三羽「ツガ」の樹上凡そ三丈の所に栖りて



シラカバ

リウセン

(295)

tzie tzie—, — *tehà, tehà* \ / \ /

Anthus maculatus.

「ツガ」の林中に多く見る。

Phylloscopus xanthodryas.

「ツガ」の林中に高音張を聞く。

金田のこや

金田のこや(金澤のこや?)は湯元より北方凡そ

一里半許、こやの山を登りつめたる所にして峠

の頂上を云ふ、毎年秋季渡り鳥の昌なる頃此峠

に霞網を張りて之を捕ふる由今日も尙峠の一隅

に「こや」あり此より兩側に凡そ一町許づゝ殆ど

一直線に霞網を張る可く數十本の枯木各數間を

隔てゝ樹てり。

Pericrocotus cinereus.

唯一羽 *chiririri, chiririri*.

..... と鳴きつゝNよりSへ天空高く飛

び行く余は先年静岡縣駿河國安倍郡の深山に夏

期の鳥況を探りたる時始めて此鳥の鳴聲を聞き

即時鳥體を確むるを得ずして歸路に就きたるが

其翌年再び視察旅行を企てたる時漸くにして余

の眼前に之を確むるを得たり、爾來富士山麓東

方面及西方面に於て此に遭遇すること前後十數

回此時も亦鳴聲と共に鳥體を確むるを得たり。

以上觀察せる所にては此鳥は何時も群飛往來し

單獨に此を見ること甚稀なりき然るに今回金田

のこやにては唯一羽を見たるのみ。

Cettia cantans.

雜叢の内に法華經を多く聞く。

Gypselus pacificus.

峠の上天空高く十數羽飛ぶ。

Picus leucocotus.

峠の頂上に休憩すること約三十分、突然余の眼

前約五間の所に來りて頻に鳴く。

Phyò, thyo, thyo, thyo,

／＼／＼／＼／＼／＼／＼／

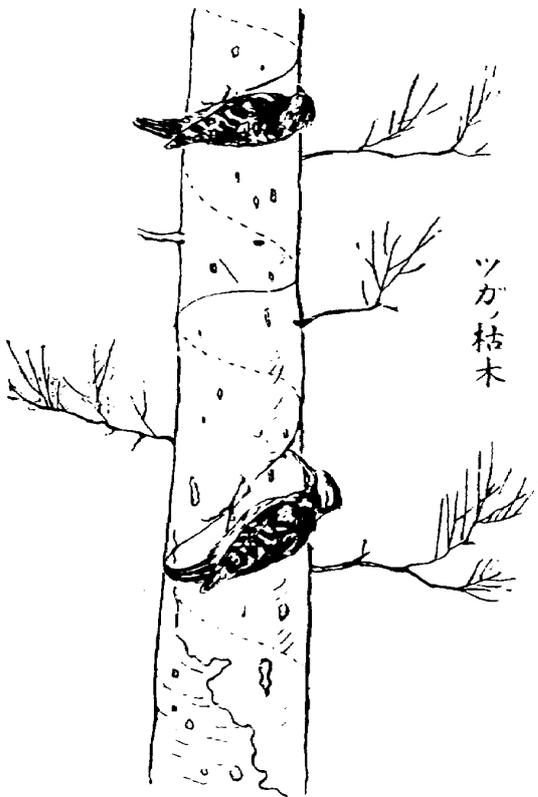
／＼／＼／＼／＼／＼／

頭上は眞紅、下腹も眞紅、胸及前腹は白、肩も白、故に *ad. ♂* なり。

此際栖りたる樹木及其時の状態は

(1) 張網に用ゆる枯木に後肢を直立し、尾羽を木に當てて少しくそり身になりて木蠹蟲を求む。

(2) 高さ五尺許の若き「ツガ」の生木の幹に栖りて始は前の如く直立し、次に螺旋狀に上行す然し幹部をたぐくことなかりき。



(3) 或生木の上部に枯れたる所あり此所へ栖りて頻に啄木す、生きたる幹部へは移らざりき。

(4) 約二丈許高き「ツガ」の枯木の幹部に來り始め低き所より螺旋狀に啄木しつゝ漸々上行す、此時奇なりしは時々樹幹に横ざまに栖りて啄木し、更に螺旋を上方に畫きつゝ樹頂に近き所まで達し、「ツガ」の林中深く飛び去る。

Garrulus japonicus.

唯一羽山林中に聞ゆ。

金澤

金澤は金田のどやを下りて西澤金山へ行く途にして峠の頂上より稍下りたる所。

Turtur orientalis.

一羽の幼鳥地上に斃れたるを見る。

Pyrhula griseiantris rosacea.

「ツガ」の林中に靜かに鳴く。

Tarsiger cyaneurus.

Tybin, tybin 一、一、一、

(298)

Garrulus japonicus.

中宮祠

Garrulus japonicus.

馬返(二十七日)

Motacilla japonica.

Hirundo rustica gutturalis.

清 瀧

Garrulus japonicus.

含滿淵

Nitava cyanonelaena.

櫻の樹に來りて幹に沿ふて縦に棲り尾羽を幹に
附着せり此事は注意すべき事なり。

Hypopetes amantrotis.

Motacilla japonica.

日 光

Garrulus japonicus.

東照宮構内に二羽を見る。

●日光山麓西北方面に於ける

七八月の鳥界一覽

(明治三十八年小川三紀の視察に基く)

- (1) *Alauda japonica.* ひばり
 - (2) *Anthus maculatus.* おひばり、びんすい、山ひばり
- (日光)

- (3) *Caprimulgus jotaka* よたか
- (4) *Cettia cantans.* べいむせ
- (5) *Chelidon dasypus* うせいばぬ
- (6) *Chloris kawarabiywa?* 大かはらひな
- (7) *Cinclus pallasi.* かねからせ
- (8) *Corvus macrorhynchnus?* はこぶつからせ
- (9) *Grax fusca erythrothorax?* ひくひな
- (10) *Cuculus poliocephalus.* せうべんせ
- (11) *Cypselus pacificus* せせいせ
- (12) *Emberiza ciopsis.* せいせり
- (13) *Emberiza fuscata* せせむか
- (14) *Erythacus akahige* せせむか
- (15) *Iridoprocne cyanus?* せせり

- (16) Garrulus japonicus. ぐんぐ
 (17) Hirundo rustica gutturalis ぐんぐ
 (18) Hypsipetes amaurotis ひんぐ
 (19) Tyngipicus kizuki seebohmi ひんぐ
 (20) Lanius bucephalus めん
 (21) Merula cordis べんべん
 (22) Merula chrysolaus めんぐ
 (23) Milvus ater melanotis むん
 (24) Motacilla boarula melanope めんぐ
 (25) Motacilla japonica めんべん
 (26) Muscicapa sibirica めんぐ
 (27) Nettion crecca? ねんぐ
 (28) Parus aler. ひんぐ
 (29) Parus atriceps minor. 四十雀
 (30) Parus varius 山雀
 (31) Passer montanus せんぐ
 (32) Perisocotus cinereus. めんぐ
 (33) Picus leucocotus. 大赤げら
 (34) Picus major 赤んぐ
 (35) Pyrrhula griseiventris rosacea めんぐ
 (36) Podiceps minor? めんぐ
 (37) Pratincola mauro. のんぐ
 (38) Phylloscopus xanthodryas. めんぐ
 (39) Sitta amurensis. 五十雀
 (40) Tarsiger cyanurus. めんぐ
 (41) Troglodytes fumingatus めんぐ
 (42) Xanthopygia narcissina めんぐ
 (43) "Zuku"?
 (44) Phasianus sp.
 (45) Turtur orientalis めんぐ
 (46) "Fukuro"?
 (47) Niltava cyanomelana. 大るり
 以下の三種は甚不明の鳥にして何なるや想像すら出来ざれども後日の備考として茲に附記しぬ。
 (48) 湯本にて夕方度々鳴く小鳥一種。
 (49) 菅沼に於て山林中に飛び入たる鳩大の鳥一種。

(300)

(30) とやの山にて「ツガ」の樹上にて昌に高音を張りたる小鳥一種。

余は第二回の報告に於て富士山麓に於ける夏期の鳥界と比較せんと
思ひしが甚多忙なるが故にそは後日時を得て更に記する事とせり。
(三十八年八月二十九日三紀記す)

正 誤

Page 正 誤

252 上段二行……………甚し 甚多し

252 下段六行……………(何?) (めぼそ)

255 上段二十行……………cinereus. cinereus

264 上段圖及文の中かや つか

264 下段十七行……………erythrothorax? erythrothorax?

上段五行……………japoniens japoniens.

同 十行……………Motacilla. Motacilla.

265 同十七行……………cinereus. cinereus.

下段三行……………Troglodytes. Troglodytes.

同十一行……………Tamberiza Sniphutata

●岸上博士よりの來信

コルサコフ民政署なる岸上博士より八月二十二日付を以

て動物學教室に報せられたる一部を摘記せんに「…………去十五日朝無事ポロアントより着、港内には Chrysaora melanaster? Cyanea postelsii? を見る、魚はキウリ、マス多し鳥はカラス、セキレイ、ヤマハト、シジウカラ等を見る爬虫類にはトカゲ、マムシを見たり昆蟲は可なり多し、就中ハハ、ナンキンムシ最もうるまじ Pieris, Vanessa を見るバッタ天牛亦多し未だ兩棲類を見ず當時山野に草花盛に咲き出で甚だ見事なり。」

會報

●豫て歐洲へ留學中なりし藤井健次郎氏は今回歸朝せられたり。

入會者

名古屋市長久寺町私立英和學校 菊田茂之丞

轉居者

仙臺市東七番町百六十一番地 飯柴永吉

神田區駿河臺南甲賀町八番地 藤田經信

本郷區千駄木町二百四十七番地十八號 田中茂穂

高知市樹形町三十四番地 岡村周諦